

別記様式（第3条関係）

事務事業評価調査書（26年度）

No.	3 3		作成日	平成26年9月29日	
総合計画	章	3	美しいまちづくり	年 度	平成25年度事業
	項	2	環境にやさしいまちづくり	課等名及び係名	環境課 環境センター
	節	2	環境に配慮した循環型社会への転換	記入者職氏名	所長 飯村 幸男

【事務事業の概要】

I 事務事業の内容

実施方法	直営	一部委託	全部委託	補助等
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
事務事業名	資源回収事業（資源回収車購入事業含む）			
事業概要	対象	町内全域		
	目的	町内より排出される資源ごみの円滑な収集及び資源化率の向上		
	実施内容	町内より排出される資源ごみの収集及び資源化		

II 予算区分及び過疎計画における区分

予算区分	会計名	一般会計		過疎計画	施策区分	
	款	衛生費			事業名 (施策名)	
	項	清掃費				
	目	塵芥処理費				
	事業名	塵芥処理費		根拠法令		

【事務事業の実施状況】

III 事業費の推移及び終期

事業期間	開始	終了				
	平成 年度	平成 年度				
年度	事業費（決算・予算）	財源内訳（単位：千円）				
		国支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
22年度実績	4,159					4,159
23年度実績	5,245					5,245
24年度実績	5,242					5,242
25年度実績	8,822					8,822
26年度当初	5,275					5,275

特定財源の種類	国支出金		県支出金		その他	
	名称	補助率	名称	補助率	名称	補助率
25年度分						

IV 執行状況

執行状況	推進中	完了	新規
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
状況説明	ごみの焼却に伴う環境負荷削減のため、焼却ごみから資源化物への転換を進めています。そうした中、平成25年度に複数の資源を回収できる車両を購入し資源回収の円滑化が図られた。		

V 問題点の概要

問題点	資源化推進（分別区分増）による人件費及び車両等の維持管理費等が増加する。
-----	--------------------------------------

VI 成果指標

成果指標名	単位	25年度		26年度		27年度		28年度		対28年度 目標達成率
		実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	
資源回収量	t	838	789		795		914		898	93.3%
指標に表われない効果	環境へ負荷低減。収集車両更新等による多種資源物の収集効率の向上。									

【事務事業の評価】

◎一次評価（担当課においての評価）

I 評価基準ごとの評価

	評価基準	評価	評価理由
目的妥当性	○目的が総合計画や国の計画の政策体系に結びついているか。 ○対象・意図を見直す余地はあるか。 ○町が実施又は関与すべき目的であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> 妥当でない	循環型社会に向けた分別収集の効率化が図れた。
有効性	○成果向上の余地があるか。 ○同じ目的を持つ他の事務事業があるか。 ○目的が達成されたか。	<input checked="" type="checkbox"/> 有効である <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> 有効でない	複数の資源物の収集に対応できるようになった。
効率性	○成果を低下させずにコストを削減することは可能か。 ○コストを圧迫している、又は増大させている要因はあるか。 ○他の事務事業との統合は可能か。	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> 効率的でない	効率的な資源回収ができるようになった。
公平性	○サービスの受益者が一部に偏っていないか。 ○負担者（納税者）の理解は得られているか。	<input checked="" type="checkbox"/> 公平である <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> 公平でない	町内全域の資源ごみの回収が速やかに行われることで理解は得られると思われる。

II 総合評価

今後の方向性	2								
<p>※今後の方向性について、次の項目から選択してください。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 継続（事業規模を拡充する）</td> <td style="width: 50%;">5 他事業と統合する</td> </tr> <tr> <td>2 継続（現行どおり）</td> <td>6 休止又は廃止</td> </tr> <tr> <td>3 継続（実施方法、実施主体等を変更する）</td> <td>7 終了</td> </tr> <tr> <td>4 見直し（実施規模を縮小する）</td> <td></td> </tr> </table>		1 継続（事業規模を拡充する）	5 他事業と統合する	2 継続（現行どおり）	6 休止又は廃止	3 継続（実施方法、実施主体等を変更する）	7 終了	4 見直し（実施規模を縮小する）	
1 継続（事業規模を拡充する）	5 他事業と統合する								
2 継続（現行どおり）	6 休止又は廃止								
3 継続（実施方法、実施主体等を変更する）	7 終了								
4 見直し（実施規模を縮小する）									
<p>【総合評価】※理由、具体策及び今後の課題等を記入してください。</p> <p>ごみの資源化を促進し焼却ごみを減量することにより、環境への負荷の少ない循環型社会形成に向けさらに取り組みなければならない。当面の課題としては、容器包装廃プラスチック類の収集を平成 27 年度より本格的に取り組む予定である。</p>									
<p>【所属長意見】</p> <p>ごみの減量化・資源化には、ごみの分別・リサイクルをしなければならない。大子町全域を効率よく回収することが求められ、更なる分別品目の増加にも対応する必要があると思われる。回収車両の維持管理にも努めなければならない、環境保全のためには今後も継続して行わなければならない事業である。</p>									

